ハヤテのごとく！~本編とかけ離れた執事譚~

熾天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ハヤテのごとく！～本編とかけ離れた執事譚～

【Ｎコード】
Ｎ３２８９Ｚ

【作者名】
熾天

【あらすじ】
作者の思いつきで書いたハナシ。オリ主を中心に展開したいと思ってます。＊本家ハヤテとはかけ離れたハナシになります。予めご了承ください。

第一譚・邂逅（前書き）

初めまして！
とんでもない、突拍子もない、文章力もない！
そんな作者ですが、最後までお付き合い頂けたら幸いです！！

では、第一譚を……どうぞ！！

第一譚・邂逅

深夜とも早朝とも区別のつかない時間、ある男がいた。

「久しぶりだな……」

男の頬には十字の傷があった。

彼は港の波止場に立ち、海を眺めていた。正確には、彼が今まで乗っていた船が遥か遠く、沖に出ていく様子を見ているのだ。

船が充分沖に出て、もう豆粒ほどの大きさにしか見えなくなった頃、彼は振り返り波止場にある廃倉庫を見上げた。

「あれからもう、8年も経つのか。さすがに8年も経てば変わるもんだな」

彼が感慨深げに呟き、頬の十字傷に触れた。傷は横は左目尻から鼻の脇まで、縦は左目頭から口の真横辺りまで伸びていた。その傷は既に肌色の皮膚で覆われており、その傷が古いモノであることを雄弁に語っていた。

見た目にはまだ齢十もそこそこ、少年にしか見えない彼には深く刻まれた傷が、あまりにも不釣り合いな印象を受ける。

「おんやぁ？　あんさん、どしたんだっぺか？」

彼が思案していると老人に声をかけられた。こんな時間帯に港に来るのだから、恐らく地元漁師なのだろう。喋る言葉がひどく訛っていた。

「いえ、なんでもありませんよ。お爺さん」

彼はそれだけ言うと再び海の方向を向いた。
その眼光は鋭く、近く未来を見据えているようであった。そして彼は天を仰ぐと、ポツリと小さく呟いた。

「綾崎ハヤテ……お前は今、どこにいる？」

ところ変わって東京都某所。様々な人々が忙しなく行き交う時間帯に少年の叫び声が響き渡っていた。

「お嬢様ーー！！　早くしないと遅刻しますよーーー！！」

叫び声に呼応するように、今度は少女の悲鳴が響いた。しかし彼らにとって、これらの事は日常茶飯事だった。

「ぬぉぉぉお！！　なぜ起こさなかったんだハヤテェェェェ！！」

「ハヤテ君は起こしてましたが、ナギが起きなかったんですよ」

少年の名は綾崎ハヤテ、若干十六歳にして両親から借金を押し付けられた。その総額一億五千万円也。
そして、少女の名は三千院ナギ、世界有数の大富豪三千院家の直系であるのだが現在に至るまでの間に相続権を失っている。
綾崎ハヤテが三千院ナギの事をお嬢様と呼ぶのは、三千院ナギが綾崎ハヤテの借金を肩代わりしたためである。そこには誤解とはずみと、様々な事柄があったのだが、今日に至ってもそれは解決していない。
そして、唯一全ての事情を理解しているのが三千院ナギを諌めているメイドのマリアである。

「えぇい！！　話は後だ！　早く行くぞ！！」

「では、行って参ります！　マリアさん」

「うむ！　行ってくる！！」

彼らはいつも通りに諌められ、いつも通りに慌ただしく登校するのだった。

ふいに、少年の耳に微かな音が聞こえた気がした。それはあまりにも小さく、判別すら難しい音であった。

「え……？」

「どうしたハヤテ？　早く行くぞ！」

「あ、お嬢様！　待ってくださいよーー！」

それでも、少年にはハッキリと聞こえた。

『お前は、今、どこで何をしている？』と。

再び、ところ変わって日中の都内某所。一人の男が写真片手に道行く人に尋ね回っていた。既に百人近く、聞いて回ったのだが一向に有力な情報は掴めていない。

尋ねた人数が二百を数えようかという時、写真の人物を知るという少女が現れた。

「執事？」

「ええ。三千院家の執事、綾崎ハヤテ君ですよね！！　懇意にしていただいてるので知ってますよ。彼がどうかしたんですか？」

「いえ、大した事ではないんで。彼が今、どこに居るのか分かりますか？」

「たぶん、三千院家のお屋敷に居るんじゃないでしょうか……」

「そう、ですか。ありがとうございます。呼び止めてしまってすいませんでした」

「いえいえ」

少女に一礼すると、彼は路肩の塀にもたれ掛かり溜め息をついた。ぼうっとした表情で彼は一人ごちた。

「三千院……執事……そうか、三千院家か」

彼の気持ちは大きく沈んでいた。そのせいか、変わらないはずの足取りさえも重く感じられる。

彼はぼうっと、何かを見つめるわけでもなく三千院家の屋敷を目指した。綾崎ハヤテを求めて……

「は？　住んでいない？」

「はい。現在こちらの邸宅には住んでおりません」

インターホンから返ってきたのは平淡な返事だった。

彼が三千院家の屋敷を訪れたのは、気温が一日の最高を記録する頃だった。

広大な敷地面積を誇る三千院家の屋敷を見つけるのに、そう時間はかからなかった。しかし、広大な敷地面積を誇るが故に正門を見つ

けるまでに時間を費やした。やっとの思いでインターホンを押したのに、返ってきた答えは『いない』だったのだ。
かなりの徒労感は否めなかった。そう思うとどっと疲れたような気がした。

「お嬢様方は『別棟・ムラサキノヤカタ』にお住まいです。御用がありますならそちらにお伺いください」

「分かりました。お手数お掛けしてしまいすいませんでした」

「いえ、お嬢様の執事として当然の行いです」

客人にはあくまでも丁寧に。そしてどこまでも礼儀正しく。それでいて自らの主人に対して敬意を払う事を忘れない姿勢は、まさしく執事の鑑であろう。
声から判断するに、この壮年の執事は長い間三千院家に仕えてきたのだとよく分かる。
彼は、この壮年の執事にもう一度礼を言うと三千院家を後にした。
『ムラサキノヤカタ』、そこに綾崎ハヤテがいるのだと知り、今一度気を引き締めて。

「ただいま戻りました！！」

「おかえりなさい、ハヤテ君」

「あ、マリアさんもお疲れ様です」

綾崎ハヤテが『ムラサキノヤカタ』に帰って来たのは終礼後すぐだった。
現在この家には六人住んでいるのだが、ハヤテとマリアだけでこの

家の生活を賄っているのだ。いくら日中人がいないからといって、全てをマリアに任せるには忍びないのでこうして早く帰って来ては家事をしている。

「あら？　ハヤテ君一人ですか？」

「えぇ、お嬢様と千桜さんは御用事があるそうです」

「そうですか。ハヤテ君、これから私はちょっと外に用事があるので出掛けますが、その間お留守番をお願いできますか？」

「はい、おまかせください」

「では、頼みましたよ♪」

そう言い残しマリアは家を出た。
マリアが家を出た後、ハヤテは洗濯物を取り込んだり、夕飯の支度をしたりした。
あらかた家事が済むと特にやることがなくなってしまった。

「さて、勉強でもしようかな？　さすがにこれ以上、テストの点を悪くしたらマズイもんなぁ……」

ハヤテの成績はギリギリだった。
ハヤテの通う白皇学院は偏差値６５以上という、非常に高いレベルを求められている学校なのだ。白皇学院は、多くのお金持ちが通う学校である。故に、小中高とエスカレーターなのだが、これがまた曲者であった。
エスカレーターという事は余程の事が無い限り進学には問題ない。
という事は、必然的にレベルは下がる。しかし、白皇学院は偏差値

６５以上なのである。
つまり、中等科や高等科から入ってくるものには物凄くハードルが高く設けられているのだ。
ハヤテは高等科からの、しかも編入生である。そのため、彼は否応なしに高いレベルを求められている。ギリギリだと言ったが、あくまで編入生としてのギリギリであって、相対的に見ればそこまでヒドイというわけではない。しかし、勉強しなければならないという大変な状況なのである。
ハヤテが勉強を始めてまもなく、家の引き戸が開く音がした。マリアが帰って来たのだと思い、ハヤテは勉強を中断し出迎えに行った。

「おかえりなさいマリアさん！！　それにしても早かったですね……」

「っ……綾崎、ハヤテ……」

「え？」

ようやく出会う二人……
彼らは呆然と立ち尽くすのみだった。

第一譚・邂逅（後書き）

いかがだったでしょうか？
まだまだ作者は未熟で至らない所も多いと思ってます。
感想等、ご指摘などありましたら遠慮なくお願いします！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3289z/

ハヤテのごとく！~本編とかけ離れた執事譚~

2011年12月11日12時46分発行